

➤ 16日 金曜

哀歌



5:1 【主】よ。私たちに起こったことを心に留め、私たちの汚名に目を留めて、よく見てください。

5:2 私たちのゆずりの地は外国人の手に、私たちの家は異国の民の手に渡りました。

5:3 私たちは父のいないみなしごととなり、母はやもめのようにになりました。

5:4 私たちは自分の水を、金を払って飲みます。薪も、代価を払って手に入れます。

5:5 私たちはくびきを負って、追い立てられ、疲れ果てても憩いを与えられません。

5:6 私たちは十分な食物を得ようと、エジプトやアッシリアに手を伸ばしました。

5:7 私たちの先祖は罪を犯し、今はもういません。彼らの咎は私たちが負いました。

5:8 奴隷たちが私たちを支配し、彼らの手から解き放ってくれる者はいません。

5:9 荒野には剣があり、私たちは、いのちがけで食物を得ています。

5:10 私たちの皮膚は、飢饉の激しい熱で、かまどのように熱くなりました。

5:11 女たちはシオンで、おとめたちはユダの町々で、辱められました。

5:12 首長たちは彼らの手で木につるされ、長老たちは尊ばれませんでした。

5:13 若い男たちはひき臼をひかされ、若い者たちは薪を背負ってよろめきました。

5:14 長老たちは、城門のところに集まることを、若い男たちは、楽器を鳴らすことをやめました。

哀歌の内容を要約したような構成がこの5章です。主に惨状を訴えています。私たちは苦しいことや悔しいことなどがあると、まず人に訴えてしまうよう

な者ですが、先ずは主に訴えるのです。または人に訴えていた自分に気づき、思い直して主に訴えるべきです。人は願ったような反応はしてくれませんし、何の助けにもならないことが多いのです。仮に助けられたとしても、その後が面倒になることが多いものです。必ずしも純粋な愛で助けてくれるとは限りません。とにもかくにも主に訴えましょう。

しかもここにあるように、ただ苦しいだけではなく、その惨状を具体的に、その気持ちをありのままに伝えましょう。主は私たちの心が開かれるに沿って、そのみわざをなしてくださいませ。本当に自分は弱者となってしまうことを、隠さずに謙遜になって祈りますしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

